

# 広島東支部 広報だより

広島県看護協会広島東支部会員数

保健師	43人 (入会率28%)
助産師	25人 (入会率52%)
看護師	1,351人 (入会率55%)
准看護師	22人 (入会率 2%)
合計	1,441人 (入会率40%)

## 支部長挨拶

広島東支部長 尾崎 仁美



平素より広島県看護協会広島東支部の活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。昨年度に引き続き2年目となります。

さて、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、今年度は会議や研修等の支部事業は、計画通りに実施することが出来ています。

2年ぶりに開催した救急蘇生研修や進路相談会は定員オーバーとなり、希望者全員が参加できませんでした。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

進路相談会にご参加いただいた中・高校生の方々には、将来、是非看護職を志していただきたいものです。

今年度の研修は、対面での研修やコロナ禍で学んだweb

研修など、会員の皆さまのニーズに沿って参加しやすい方法を取り入れ開催しています。

また、今年度はイベント型「まちの保健室」を中野公民館において開催しました。健康チェックと共に、様々なパンフレットを配布し予防の大切さについて啓発させていただきました。少子化や超高齢化が進む中、全世代の地域住民の方々の健康に寄与し、安心して地域で暮らすことが出来るよう、支部内で看護職が連携を強化し、活動していきたいと思えます。今後とも支部運営にご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

## 令和5年度 東支部総会 リフレッシュ研修

日時／令和5年4月15日(土)  
場所／東区福祉センター



令和5年4月15日(土)東区福祉センターにてリフレッシュ研修会を開催いたしました。堺エミ先生をお招きし、「あなたの骨格タイプと似合うカラーは?～自分の「似合う」を知ってスタイルアップ」というテーマで楽しくご講演いただきました。32名の参加者があり自身の骨格診断をしたり、実際の色見本を身体に合わせたりしながら、体験型の講義をしていただきました。当日は先生の周りにみんなが集まるほど話が盛り上がり、年代問わずオシャレを楽しむ方法がわかり、心も体もリフレッシュできたなど寄せられ、楽しい研修会となりました。



教育担当 山本 亜紀子

## + まちの保健室 +

11月5日中野公民館祭りで「まちの保健室」を行いました。

地域住民の健康づくりの支援を目的とし、血圧測定・体脂肪測定等の健康チェック、健康に関する相談を行い、50名近くの方にお立ち寄り頂きました。

骨粗鬆症や認知症に関するポスターやパンフレットを準備していましたが、「最近血圧が…」 「体脂肪はどうやって減らせる?」といった相談内容が多く次年度はそのような健康ニーズに対応した情報提供がしっかりできるよう準備していこうと思います。

今年度初の試みでしたが、地域の皆様のお役に立てたのではないかと感じています。



副支部長 川口 直子

## 令和5年度 役員紹介

支部長	尾崎 仁美	マツダ病院
副支部長(連盟担当)	小早川清美	太田川病院
副支部長	川口 直子	済生会広島病院
幹事(総務)	原田あいこ	マツダ病院
幹事(財務)	福田 洋子	JR広島病院
幹事(社経)	吉田 和代	太田川病院
幹事(教育)	山本亜紀子	JR広島病院
幹事(教育)	田中 正志	安芸市民病院
幹事(教育)	北木 弥生	済生会広島病院
幹事(教育)	折出 和美	訪問看護ステーションアルファ矢野
担当理事	萩原七帆子	安芸市民病院
事務	横山 祐子	広島東支部事務所

# 広島東支部の **輪** 顔の見える看看連携

私たち繋がっています

## 😊 顔がみえるっていいですね

マツダ病院 地域連携センター 宮迫 ふみえ



私は地域連携センターで退院調整看護師をしています。令和4年10月から3ヶ月間、看護協会の訪問看護出向事業で安芸地区医師会訪問看護ステーションへ出向しました。訪問看護の依頼は病院からだけではなく、在宅スタッフからの依頼もあり、本人の病態や薬情報、検査結果など病院とは違い、情報が限られていることを学びました。訪問中、異常時の受診目安など悩むこともあり、そんな時にまず相談してみようかと思う部署は自分が在籍している地域連携センターだと感じることがありました。1年が経過しその実践として外来や病棟、在宅側から受けた相談を関係部署と連携できるよう架け

橋をしています。特に終末期の療養者は外来看護師と訪問看護師がタイムリーに情報共有し、直接連携ができるよう調整しています。嬉しいと感じることは、安芸地区医師会訪問看護ステーションから相談があったとき、「宮迫さんで良かった、助かった」と言われることが多くなり、電話先で相手の顔が浮かび自然と笑顔になり、出向して良かったと感じています。連携を通して病院側の情報と在宅側の生活の視点に沿ったケアを共有し連携することで看護の幅はもっと広がり、在宅で安心して療養できると感じました。

## 😊 顔のみえる 地域連携構築への取り組み

安芸市民病院 地域包括ケアシステム推進部 松田 早苗



安芸市民病院地域包括ケアシステム推進部の松田です。当部署は、地域医療構想や病院の在り方検討会を踏まえ、地域完結型病院を目指すために立ち上げた新部門で5年目を迎えています。社会福祉士4名、事務員1名、看護師7名の計12名で「地域と共に生きる」を理念とし、地域連携業務の強化、専従の看護師(CN&特定)が主となり在宅支援や専門性の高い看護師の自立的活動推進に取り組んでいます。

さて、「繋がっています」がテーマということで、地域における顔の見える連携づくりの一部を紹介します。令和2年より、診療圏内の済生会広島病院・マツダ病院地域連携室の方々

と共有クラウド(バイタルリンク)を用いて情報交換会を始めました。新型コロナ感染症流行禍においても定期的な情報交換を行うことで強い絆ができ、現在では診療圏を超えた病院の参加や社会福祉士間での開催も行われています。開催日が楽しみで、終わった後には「つながっている!」と実感しています。こういった自然発生的な取り組みが、地域包括ケアシステムの推進・深化につながるのではないのでしょうか。今後は2040年問題等も視野に入れ、地域活動の拡大を目指し繋がりたいと思っています。

## 😊 思いをつないでいくために

JR広島病院 地域包括ケア病棟 小松 亜希恵

私たちJR広島病院地域包括ケア病棟のスタッフは、患者さんが住み慣れた地域へ安心して退院が出来るように患者さんは「生活者」であるという思いで看護に取り組んでいます。

昨年訪問看護ステーションで研修をさせて頂いた時に、患者さんが大切にしている日々の生活や価値観、その人らしい生き方や思いに目を向けることの大切さを強く感じるがありました。それは訪問看護師さんからの「患者さんやご家族がどんな思いで家に帰るのか、どんな生活をしたいのか、病気に對してどんな思いなのか、私たちは思いが知りたい」との言葉でした。

患者さん・ご家族の思いをカタチにしていくためには、どんな状況であったとしても諦めずに地域へ繋いでいかなければいけないと思いました。そのためには患者さんが大切にしていることや入院前にどのような生活を送ってきたのかを知ること、そして退院後の生活をイメージしながら丁寧に話を聞くことを心掛けています。

コロナによる制限も緩和されてきました。退院前カンファレンスや看護サマリー、電話での情報交換等に力を入れ、地域のスタッフの皆さまとともに「生活者」とご家族の思いをカタチにしていきたいと思っています。

## 😊 坂町地域包括支援センターについて

坂町地域包括支援センターは坂町からの委託を受けて、済生会が事業を行っています。私は昨年4月に病院から異動してきました。包括支援センターには主任介護支援専門員、社会福祉士、保健師の専門職三職種が配置されています。介護保険の代行申請や要支援認定の方のケアマネジメントを行ったり、介護予防に関する啓発活動や認知症サポーター養成講座をはじめとした認知症関連の事業などを行ったりしています。なんでも屋の側面もあり、高齢者のよろず相談窓口とも言われています。保健師の役割としては、健康相談をはじめとした医療に関わる相談部分を担うことが多い状況で

### 坂町地域包括支援センター 田中 瑠美



す。そのため、地域の病院・クリニックをはじめ施設や訪問看護事業所の看護師のみなさんとやりとりすることも少なくありません。自分だったらどのように対応すればいいのかと頭を抱えてしまいそうなケースも、多様なスキルを活かして、やさしく丁寧に的確に対応してくださっています。この場を借りて感謝申し上げます。

最後になりましたが、私自身まだ慣れないことも多く、近隣の事業所の皆様にはご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、今後ともよろしく願いいたします。

## 😊 訪問看護から見た看看連携

### 【地域の訪問看護師とつながる】

安芸地区地域とその近隣の訪問看護ステーションの管理者が月に一度の定例会を開いています。制度の確認や、人材育成、ハラスメント事案など管理者が抱える問題点を話し合い、疲弊していれば他のステーションが引き受けるなど助け合いの場にもなっています。感染症や災害等でステーションの事業が機能しなくなる事態が起きたとしても地域の訪問看護が手を取り合って、情報共有や利用者への支援をしているようBCP(事業計画)を作っていくことで地域看護の質の向上に努めています。

### 【介護サービス事業所の看護師とつながる】

地域には特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、デイケア、デイサービス、障害者施設等多様な施設がありそれぞれの看護師の協力もあって在宅看護が成り立っています。人工肛門や、留置カテーテル、在宅酸素療法、褥瘡処

### 安芸地区医師会熊野町訪問看護ステーション 坂本 しげみ

置などの医療的な管理上の問題点も必要時話し合っています。熊野町ではコロナ禍前までは各施設職員が集まっていた「在宅ケア検討会」が定期的にあり顔が見える体制がありました。住みやすい地域づくりのためにも必要な連携です。

### 【病院看護師とつながる】

熊野町内には病院がありません。地域住民は町内の診療所と広島市、安芸郡、呉市、東広島市と多方面の病院に通院することになります。それぞれの病院との連携方法が違っており戸惑うことも多いですが、アプリを使っただけの連携も増えてきました。特に後方支援病院である、済生会広島病院、マツダ病院、安芸市民病院と共通の連携アプリを使って看護師全体の質の向上に努めています。



## 😊 たかね荘の取り組み

たかね荘は、済生会広島病院に隣接する70床の特別養護老人ホームです。利用者や家族は、「終の棲家」として当施設を選んで入所されます。入所されたときから、ACPの話し合いを行っています。当施設でどのように過ごしたいのか、特養に入所されても叶えたい思いはないか、そして最期をどのように過ごしたいのか…。

マザーテレサは「人生の99%が不幸だとしても、最期の1%が幸せならば、その人の人生は幸せなものに変わる」と言っています。私は、利用者が人生の最期を過ごす特養での看護は、この1%に関わることができるやりがいのある仕事だと思っています。コロナ禍で、家族に会う、外出する、行事に参加する

### 特別養護老人ホームたかね荘 加登 聡美



など当たり前の日常がどれだけ大切なものなのか改めて感じることができました。そのため、利用者や家族のどんな小さな希望でも把握して、どうすれば叶えることができるのかを多職種で話し合い、協力して支援しています。利用者や家族のうれしそうな表情が、自分たちのモチベーションにつながっています。

今後も、利用者が最期を迎えた時に「たかね荘でよかった。」と思っていただけるような看護を目指し取り組んでいきたいです。

## 研修報告 救急蘇生研修会開催

日時：令和5年8月26日(土)

救急蘇生研修は、受講生26名で、マツダ病院の住居晃太郎医師を講師に迎え開催しました。研修は、救急医療の現状や心肺蘇生方法、看護師の役割等について実演を交え講義を行い、講師とインストラクターの指導の下、成人一人法・二人法CPR、AEDを用いたCPR等の演習を行いました。受講生は、積極的に講師に質問をしたり、技術を確認してもらおう等真剣に取り組んでいました。研修後、受講生からは「救急蘇生の自信がついた」「人命救助に貢献したい」等の声が聞かれ、救急蘇生の知識・技術を習得し、実践につながる研修となりました。 教育担当 北木 弥生



## 研修報告 社会経済福祉研修会開催

日時：令和5年9月9日(土)

働き続けられる職場づくり活動の一環として、9月9日(土)「あなたの骨大丈夫?～人生100年時代を元気に過ごすためのヒント～」をテーマに、マツダ病院 骨粗鬆症マネージャー 井升江美子さんを講師にお招きし研修会を行いました。

骨折・骨粗鬆症予防や介護離職など看護職にとって興味深いテーマであり、分かりやすい資料・講義内容で実践に活用できる研修であったと好評な意見を頂きました。

人生100年時代 更年期の女性のみでなく、親世代も含め骨折・骨粗鬆症を予防し健康寿命を伸ばし、社会で元気に活躍しましょう。 社経担当 吉田 和代



## 研修報告 組織強化研修会開催

日時：令和5年12月9日(土)

組織強化研修会を、令和5年12月9日(土)ZOOM及びJR広島病院にて開催いたしました。看護連盟について小早川清美様、看護協会について萩原七帆子様に説明いただき、訪問看護ステーションアルファ所長：折出和美様による「訪問看護ステーション立ち上げから現状まで」というテーマでご講演いただきました。35名と多くの方のご参加があり、訪問看護ステーション立ち上げまで経緯や思い、施設間の連携、多職種連携など、大変わかりやすくご講義いただきました。参加者の皆様から情報共有の重要性や、在宅看護と病院看護のそれぞれの立場でできることなど実践で活用したいと感想が寄せられ、学びの多い研修会となりました。 教育担当 山本 亜紀子



## ▶ 看護研究サポートを受けて

今回私たちは、緩和ケア病棟における、せん妄患者に対するスタッフの意識と看護ケアの変化をテーマに、看護研究サポートを受講しながら取り組んでいます。看護研究結果を踏まえ、チームでせん妄予防ケアを実践していくことで、スタッフの意識が更に高まり、自信に繋がっていくことを期待しています。

広島市医師会運営・安芸市民病院 香河 愛子

今回初めて看護研究サポートを受講しました。看護研究というと「大変」という苦手意識が強かったのですが、定期的に先生からご指導いただくことでその都度軌道修正ができています。先生とも話やすく適

切な助言をいただけるので、自信を持って研究を進めることができます。みなさんもぜひ受講してみてください。

マツダ病院 救急センター 宮川 尚子

広島東支部の研究サポートを受講し、看護研究の進め方や苦手に行っている看護研究の方法について教えて頂きました。今回は初めてインタビュー調査、データのコード化を実施することになりましたが、研究サポートで先生から方法を具体的に聞くことができたため、現在のところ順調に看護研究を進めることができています。

済生会広島病院 新内 香菜子



## 編集後記

新型コロナウイルス5類移行に伴い、日常が少しずつ戻ってきました。昨年度は中止になった研修会もありましたが、今年度は対面やZOOMを利用したハイブリッド形式の研修を予定通り行うことができました。来年度もそれぞれの場所で看護の力を発揮し、連携・協働できたらと思います。／折出

【発行日】2024年2月発行

【発行所】公益社団法人広島県看護協会 広島東支部  
〒732-0052 広島市東区光町1丁目6-8 第二吉岡ビル 603号室  
TEL/FAX:082-262-3524  
E-mail: s-higashi@nruse-hiroshima.or.jp

【発行責任者】尾崎 仁美